



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目
5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 太田 敬介
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
https://www.nippon-pta.or.jp/

この二次を元コードブックなどで読み取っていただきますと、日本PTA全国協議会のホームページにアクセスできます。

企画編集協力
日本教育新聞社

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校および中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育および家庭教育の充実に努めるとともに、家庭・学校・地域の連携を深め、児童生徒の健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

- 1~5面
- 川崎大会・太田会長挨拶・浦山実行委員長「川崎大会を終えて」
 - 来賓あいさつ・司会者紹介
 - 特別第1・特別第2・基調講演・セッション1
 - セッション2・セッション3・展示会場紹介
 - 記念公演・石川大会アピール・大会宣言
- 6-7面
- 定時総会のまとめ
 - 新役員の意気込み
- 8面
- 広報紙コンクール入賞校一覧
 - 推薦商品一覧
 - 石川大会告知



大会スローガン

ウェルビーイングの実現を、川崎の地から
～活かそう「緑」の力～

メインテーマ

- 社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動
- 自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動
- 誰も取り残さない、居場所を大切にするPTA活動

第72回日本PTA全国研究大会 川崎大会
第56回関東ブロック研究大会

8月23日(金)・24日(土)とどろきアリーナにて開催!



公益社団法人
日本PTA全国協議会
太田 敬介 会長

令和6年度、公益社団法人日本PTA全国協議会会長を拝命しました太田敬介(おおた・けいすけ)と申します。

先般、日本PTAの元役員が逮捕されたことに伴い、PTAの始まりは、戦後、当時の文科省から「父母と先生の会」として教育の民主化のために」というPTAという手引書が全国の都道府県知事宛に

府県知事宛に

つぎまして、全国のPTA会員、教育関係の皆様にご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、心からお詫び申し上げます。今後、再発防止に向けて、内部ガバナンスの徹底した強化を図ってまいります。

PTAの始まりは、戦後、当時の文科省から「父母と先生の会」として教育の民主化のために」というPTAという手引書が全国の都道府県知事宛に

会長あいさつ

会場となったとどろきアリーナに入場してまず目に飛び込んでくるのが会場中央に設置されたステージ。360度全方向型の開放感あふれる会場の雰囲気に参加者の期待感も最高潮。



川崎大会実行委員長
浦山 利博 氏

お陰様でたくさんのご好評とさせていただきます。

今回の川崎大会では、別々の会場での分科会ではなく、参加者が一堂に会し、隣席の参加者同士でグループとなり、それぞれの思いをシェアするという初の試みで開催されました。

「活かそう「緑」の力」のスローガンのもと、家庭・学校・地域にとPTAの縁が紡ぐ道を通じて、ウェルビーイングを社会に広げることを目指しました。そのため、参加者全員が共に学べる一会場開催、全周回と受発信が出来る中央ステージ、ただ眺ただけではない参加者間のティンスカッション多くの現職教職員のご参加として自分事としての個人宣言など、新しい形を取り入れた。併せてDX活用によるコスト低減にも配慮いたしました。



ご臨席いただいた来賓からのあいさつ



川崎大会開会行事の様子

無限の可能性があるんだということが 私たち川崎市民の誇り



川崎市長
福田 紀彦 氏

皆様こんにちは。川崎市長の福田紀彦と申します。

日本PTA全国研究大会がこの川崎市で開催されることに心からお慶びと歓迎を申し上げます。ようこそ川崎市にお越しください。

さて、このところさアリーナ、等々力緑地ですが、子供たちにとってここは晴れの舞台となるのであります。さまざまなスポーツ競技において、特に中学生は川崎一を決める大会がこの場所で開催されます。甲子園までとはいませんが、ここで自分のベストを尽くすという晴れの場所そのような場

所に、子どもたちの幸せを思っ日々活動していただいている皆さんを迎えてきて、本当にうれしく思っています。

川崎市PTA連絡協議会の皆さんは、様々な行政活動にご協力をいただいておりますが、お願いや要望だけでなく、まさに子供たちの幸せを一緒に考え、行動していただいている集団の皆さんです。おそろく、今日ここに

全国各地でその活動を日々やっておられる。その地道な活動に心からの感謝と敬意を表したいと思います。ぜひ、色々なことに負けず、全ての子供たちのために、自信を持って前に進んでいていただきたいと思います。

この川崎大会は、浦山実行委員長がさまざまな豊かな

この川崎市のロゴマークは、川崎の川という漢字が光の三原色 赤・緑・青となり、おり、これには意味があり、光の三原色は混ぜ合わせることによって無限の色をつくり出します。無限の可能性があるのだということ、私たちが川崎市民は誇りに思うということ、敢えて使っ

ています。今日お集まりの皆さんもいろいろな地域の方が、いろいろな考え方を持っています。ただ目的は一つ、子供たちのために、その目的のために、いろいろなアイデアを出し合っ、由々しき時代ではあります。が、いろいろな知恵を出し合っって価値を見出し、そのような大会になることを、心から期待しています。

今年川崎で開催されると聞きました。ぜひ大会二日間、爽りのあるものとなって、来川県で被災地となっている川崎市、子供たちに元気を届けて、そして元気な石川県の子供たちの姿を全国に発信する。そのようなステップとなる大会になることを、心から祈念しています。



100周年を迎えた川崎市の街への想いとPTAへのエールを熱く語る福田市長

から祈念して、あいさつに代

でくださいました。ありがとうございます。

PTA活動を通じて子供たちの成長を 地域全体で支える社会の実現に！



文部科学省総合教育政策局
社会教育振興総括官
平野 誠 氏

令和六年度 第七十二回日本PTA全国研究大会が、この川崎市にて盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

まず、本大会の開催にあたり、御尽力いただいた公益社

団法人日本PTA全国協議会、関東ブロックPTA協議会、川崎市PTA連絡協議会をはじめ、川崎市の教育委員会関係の皆様、多大なる御支援によって、全国のPTA関係者が一堂に会し、今日的課題について研究を深める機会を作っていただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。

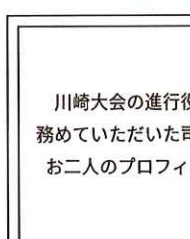
また、御参集の皆様方におかれましては、日頃からPTA活動を、学校、家庭、地

域の架け橋として、子供たちの健全育成に御尽力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

家庭や学校、社会の関わり方が変わっていく中で、文部科学省としては、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に取り組み」とともに、休日の部活動の地域連携・地域移行に向けた環境の一体的な整備を進めてまいります。

皆様におかれましては、PTAを取り巻く環境が変化す

の中で、オンライン会議の導入など、効率的な運営を実施し、PTA活動の充実に取り組みされていると伺っており、各地域の実情に応じたPTA活動を通じて、子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



堀潤 氏
NPO法人SbitNews代表理事/株式会社GARDEN代表/社会教育振興総括官
1997年兵庫県生まれ、立教大学文学部ドイツ文学科卒業後、2001年NHK入局。アナウンサーとして「ニュースウォッチ9」リポーター、「Biz スポ」キャスター等、報道番組を担当。2012年市民ニュースサイト「8bitNews」を立ち上げる。2013年4月1日付でNHKを退局。現在は、ジャーナリスト・キャスターとして独自の取材や報道・情報番組、映画など多岐に渡り活動している。清瀬大学文学部客員教授、「For bes Japan」オフィシャル コラムニスト。2019年から、早稲田大学グローバル科学知能融合研究所招聘研究員に就任、SDGsフロンティアラボで市民の声を届けたイベントや情報発信を企画している。2020年、自身で監督、出演、制作を行った映画「わたしは判断を許さない」を公開。

塩沢 節子 氏(ファシリテーター)
幼児園チューリップルーム園長
山形県出身。保育士歴35年。度々の育児に悩みアドラー心理学子育てを学び、「大人も子供もできる保育をしたい」と一念発起。1996年「わが子を連れてたい園がナイなら作っちゃえ！」と、川崎市宮前区の自宅で、幼児園「チューリップルーム」開園。現在朝陽の丘に「子供たちのために」を掲げ、親は出るながら育ちながらいる現在、子供の自立を軸に、親心に寄り添いながら、笑って、泣いて、ケンカして子供の世界を保障するというチューリップ独自の子供の保育と、お母さんと共に学び育ち合う園を運営中。GFB合同会社を設立し、チューリップルームの他に小規模保育園を3園経営。書籍にマツダヒロミ氏共著「子供の考え方を伸ばす魔法の質問」(PHP出版)
■チューリップルームでは次の3つを大切にしています。
○自分で決める～自ら考え動く子供○感情を出し切る～心、豊かな子供
○体験すること～息吹のある子供

川崎大会の進行役を務めていただいた司会者
お二人のプロフィール



特別第1日本PTA担当
研究課題 全国のPTAの緑をいかに強く進める
教育環境改善への提言

PTAの真の役割とはウェルビーイングな社会教育の促進
視点要旨
①教育を社会のウェルビーイングとは何かを学ぶ。
②社会的視点から日本PTAが目指すPTA本来の役割とウェルビーイングを学ぶ。
③日本PTAと関係者や協賛会との連携、協議、協働、社会への発信の促進など、時代を捉えたPTA活動の進歩の方向性を考える。

特別第1では講師の内田由紀子氏と大田会長が登場し、共に意見交換をしながら進められました。
人は、いつの時代も幸福を求めてきました。今日においては個人や家庭だけでなく、教育・経済・厚生など社会の様々な分野における、より包括的な幸福、すなわちウェルビーイングが求められています。



360度のステージに緊張気味の
大田会長



参加者の意見を確認する内田氏

る機会を生かし、日本PTAが目指すウェルビーイングとは何か、その真の役割とは何なのかを発信し、今後の進歩と進化につなげることを共に考えるきっかけとなったと思います。



講師
内田由紀子氏

近年、児童生徒の様々な問題が増加し、文部科学省は子供たちの生きる力を育むという目標で学習指導要領を制定しています。これは、生きる力を育む、先の人生に備えて欲しいというウェルビーイングの思いで制定されました。学校に運ばれてきた通えない子供たちも多く、このようなよい政策は、社会への実装と浸透とが求められます。

全体基調講演
研究課題

誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて

全ての子供たちに「生まれてくれてありがとう」を届けよう！

視点要旨

①急速な社会変化における家庭・学校・地域と社会の様相を知る。
②特1を受け、特2へと繋がる基調講演であり、PTAの原点である子供たちを慈しむ心が家庭・学校・地域へと広がり、社会のウェルビーイング実現へと向かっていくことを学び考える。



大人が大丈夫を手に入れれば大丈夫と語る西野氏

保護者にとって最も大切なものは、紛れもなく子供たちです。しかし、日本の子育て環境は、学方の競争で他と比べた

り経済的な負担が重なり、保護者や子供たちに厳しさを感じる面があります。学校だけでなく、家庭やその他の場所でも生きづらさに直面する子供たちが増え、同様に感じている大人も増えています。これは、全世代におよぶ課題です。小小学2年生でいじめのピークが始まるというデータがあります。命に係わるいじめにより自殺者が年に500人を

超える現在。その要因は子供たちの自己肯定感の低さにあると言います。保護者の「ちゃん」という言葉が子供が家庭で弱音を吐けないで居るのです。学校に行かないだけで命を絶つ子供が居る。不登校支援は親支援が最も大事だと考えます。大人が大丈夫を手に入れれば大丈夫なんです。生まれてきたけれども奇跡なので、子供たちに生まれてくれてありがとうを届けたいのです。川崎市は子供権利条例を日本で最初に条例の報告会の席で子供たちの代表が語ったのは、まさに大人が幸せに居て下さい。大人が幸せじゃないのに子供だけ幸せにはなれませんでした。



講師
西野博之氏
NPO法人フリースペース（フリースペース）理事長/
川崎市子ども夢パーク所長

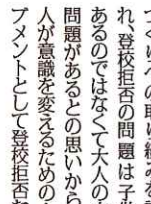
川崎市若狭自立支援センター「フリースペース」総合アドバイザー。精神保健福祉士。全国的に活躍する神奈川県川崎市非常勤講師。1960年東京・浅草生まれ。1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者たちの居場所づくりにかかわる。1991年、川崎市高津区に「フリースペース」を開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、様々な障がいのある人たちとともに地域で育ちあう場を続けている。2003年7月にオープンした川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により、公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペース」を開設。2006年4月からは、指定管理者として子ども夢パーク全体の管理・運営にあっている。全国に先駆けて川崎市で2008年に制定された「子どもの権利に関する条例」は調査研究員としての生活人として策定に関わり、制定後も条例の影響・成長を見守るかわかり続けている。

特別第2
文部科学省協力、
地域連携、人権教育
研究課題
大人が変われば子供も変わる！
ウェルビーイングの社会実装

学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ
視点要旨
①子供たちの学びの現状と未来の問題と課題を知る。
②誰も取り残さない教育政策を知る。
③その草の根的な社会実装の事例を学び、子供たちの生きる力を育むPTAの役割について考える。

近年、児童生徒の様々な問題が増加し、文部科学省は子供たちの生きる力を育むという目標で学習指導要領を制定しています。これは、生きる力を育む、先の人生に備えて欲しいというウェルビーイングの思いで制定されました。学校に運ばれてきた通えない子供たちも多く、このようなよい政策は、社会への実装と浸透とが求められます。

近年、児童生徒の様々な問題が増加し、文部科学省は子供たちの生きる力を育むという目標で学習指導要領を制定しています。これは、生きる力を育む、先の人生に備えて欲しいというウェルビーイングの思いで制定されました。学校に運ばれてきた通えない子供たちも多く、このようなよい政策は、社会への実装と浸透とが求められます。



講師
土屋美樹氏
文部科学省初等中等教育局
児童生徒課 生涯学習第一係長

今年2年に並務員に入務後、初任研修や大田市長に在席し、主として児童生徒の居場所から、再発防止に係る企画の推進の業務に携わる。法務省の協賛による児童生徒の居場所の確保に、社会内資源の活用や連携の推進や非行を行った親に対して、社会内での立ち回りに向けて指導・支援を行う。本年4月から文部科学省に在席し、「誰一人取り残されない学びの場」に向けて、主に事業設計の観点から不登校対策に携わっている。

「トキョーコーヒー」を立ち上げて2年間で400拠点に拡大したことが報告され、「安心」と「自信」が教育の土台でなければならぬと訴えられました。
学校に通いたくとも通えない子供たちを含め「生きる力」を育む場を作り、まず大人たちがそこに参加して楽しむ。
を子供たちに見せることも大切です。
講演後にはパネリストに西野博之氏が参加してトキョーセッションも行われました。



講師
吉田タカシ氏
アトリエ.e.f.t.代表/
トキョーコーヒー代表

1977年生まれ、兵庫県出身、奈良県在住。1998年、大阪芸術大学在学中に美術大奨励の予備校としてアトリエ.e.f.t.を創業。同時にスロロクバンド「DOBERMAN(ドールマン)」を結成し、関西のスカシーンで代表するバンドとして大規模フェスの出演や海外アーティストとも共演するなど、その名を全国に轟かせる。アトリエ.e.f.t.は徐々に青年の創造性を育成する教育方針に転換し、2017年には生協校を開設。一方で大阪大学の講義や放課後サービスなど、多岐にわたる活躍を見せている。一児の父。
○登校拒否じゃないトキョーコーヒー。大人が楽しく学びあう拠点は全国約250カ所。教育システムを進化させるムーブメントを主催。○○○○くくるを通していきいきを学ぶアトリエ.e.f.t.。大阪校と生協校に約200人の生徒が在籍。○「まほうのたけし」や「アトリエ」共同代表。地域の子供を支える仕組みが2022年グッドデザインアワード大賞を受賞。

セッション1
今日的課題、
社会教育
研究課題
多様性を認め合う
心豊かな社会を目指して

遠いに気持ちよくワクワクする人間関係が活動の力！
視点要旨
①講演での学びを自分のことに引き寄せて考えるために必要なことは、
②今を生きて大人たちが子供たちに必要な多様性を認め合える考え方や学びとは、
③PTA活動に大切なこと、PTAだからできること、
社会に貢献できることとは。



参加者の視点で語り掛ける上村氏

今日私たちが身の回りで起きている問題の原因の一つ
第一歩となります。殊に、講

として、「一人ひとりの違いを受けとめず対立してしまおうことが挙げられます。多様性や「一人ひとり違っている」という言葉をよく耳にしますが、違う環境で育ち、違う経験をしてきたのだから違う価値観を持っている。当然というのを改めて理解し、違う価値観を持つ相手を受けとめることが、良好な人間関係づくりの



講師
上村和弘氏
上村和弘
メンタルトレーニングトレーナー

「討議の視点」や「討議の準備」の内容を通じて、本大会の「縁を感じつつ、お互いが」そんなたねと尊厳を伝える対話を楽しみなが体験し、誰もが心理的安全性と活力のあるPTA等の場づくりにつながって行ければと思います。



セッション2 家庭教育

研究課題 子供たちと一緒に自己肯定感を高めよう! 家庭教育の大切さ

子供たちへの報酬は「ほめること」もって親力を発揮しよう!

- ①子供の自己肯定感を高めることは自分を高めることを知る(家庭教育の意識)
②目標の子供との向き合い方(学び、問題)課題を考える
③自身に帰って子供と接する姿の温もりに思いを馳せる。



自身の体験を通して家庭の幸せがウェルビーイングにつながるクローラン氏

子供たちは褒められることに大きな喜びを感じるもので... 自己肯定感を高める方法に「ほめる」という家庭でできるもの



講師 親野 智可等氏 教育評論家



講師 クローラン悦子氏 mama'n'muse 主宰



参加者の拍手に応えて両手を大きく広げて登壇する親野氏

のがあります。これは、子供たちとの写真を用意して一緒に飾り付け、あつたね、楽しかったね、と振り返ることで、自分肯定感を高めようというものです。

子供たちとの縁で盛り成す家庭の幸せ、いわばウェルビーイングを実現したい保護者は多いはず。子供への報酬は「ほめること」。

セッション3 学校教育 地域連携

研究課題 地域や社会に広げるウェルビーイング! 住み続けたいまちへ

全国大会ならではの!各ブロック大会等の活動事例から共に学ぼう

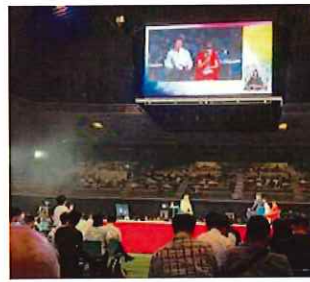
- ①学校を好きになり、地域を愛する効用
②学校・地域・行政との連携
③動画の制作 共有で学んだことをどのように活かすのかを語り合う。



ウェルビーイングの実現に向けての想いを語る親野氏

各ブロックでは、毎年、大会を開催し、参加協議会の様々なPTA活動の実践発表を行っています。しかし、その全容が全国規模で充分知られる機会はありません。

表内容を提供頂き、動画に編集して上映することで共有し、全国大会ならではの意義を一段深める「縁」となることを願って取り組みました。



パネリスト 宇田直人氏 (石川県PTA連合会会長・日本PTA全国研究大会石川大会実行委員長) 親野智可等氏 (教育評論家)

第56回日本PTA関東ブロック研究大会

2日目の午前8時半から開催された関東ブロック大会では、浦山実行委員長のあいさつ感謝状贈呈の後、次期開催地の長野県PTA連合会によるアピールでは、長野県PTA連合会、城村会長のあいさつ、分科会の紹介、続き熊谷実行委員長が熱い想いを語りました。長野県PRキャラクター「アルクマ」も会場に駆けつけてくれた。参加者の皆さんを癒やしてくれました。



熊谷実行委員長に関東ブロック旗が手渡された

第57回日本PTA関東ブロック研究大会 ながの大会 2025年10月18(土)・19(日)開催 [スローガン] 「結<ゆい>」笑顔で未来をつくる ~子どもと一緒にウェルビーイングの実現を信州から~



長野県PTA連合会・城村会長のあいさつ



長野県PRキャラクターのアルクマも登場



展示ブースでは、川崎市政100周年の歴史を辿る展示や本大会に参加していた講師の方々の活動を紹介する展示などで大盛況となりました。

川崎大会開会行事の来賓者の方々	
平野 誠	文部科学省総合教育政策局・社会教育振興総括官
西 明夫	文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課・家庭教育支援室長
岡本 真穂	文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課・家庭教育振興係
福田 紀彦	川崎市長
青木 功雄	川崎市議会・議長
小田嶋 満	川崎市教育委員会・教育長
松原 修	全国連合小学校長会・会長代理
清野 正	全日本中学校長会・総務部長
山崎 篤史	全国公立幼稚園・こども園PTA連合会・会長
宮本 昌尚	一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会・副会長
常盤 隆	公益社団法人日本教育会・専務理事
井藤 直美	公益社団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部・支部長
川村 雅昭	川崎市立小学校長会・会長
松田 宇宙	川崎市立中学校長会・副会長
稲葉 武	川崎市立特別支援学校長会・会長
廣田 健一	川崎市PTA連絡協議会 歴代会長会・会長
東川 勝哉	公益社団法人 日本PTA全国協議会・第38代会長
後藤 豊郎	公益社団法人 日本PTA全国協議会・第42代会長



ステージ上をゆっくり回りながら参加者に語り掛ける前野マドカ氏



■講師
前野 マドカ氏
EVOL株式会社代表取締役CEO
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属システムデザイン・マネジメント研究所研究員。国際ホスピタリティ心理学会会員。サンフランシスコ大学、アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)を経て現職EVOL株式会社代表取締役CEO。PTAにおけるウェルビーイング講演など幸せを広げるワークショップ、コンサルティング、研修活動及びプレミアムワーク研究・事業展開などを行っている。

視座・要旨
①社会のウェルビーイングの大切さを再確認する。
②個人の小さなアクションと仲間や周囲との協力が大きな力になることを理解する。
③今日から次の一歩を踏み出すことを考え決意し、行動に移すことを目指す。

教育分野は勿論のこと様々な社会の分野において、ウェルビーイングな状態が求めらる。人口比率は決して少なくなく、社会に対する役割に大きな期待が寄せられています。しかし、PTAの現場では、必要な活動や運営を進める上で問題や課題に遭遇することが多々あります。たとえ改善・改革のためであっても、現行を変更するに非なる心理的・物理的エネルギーを要するのことも事実です。一人ひとりが新たな一歩を踏み出す力を身に付け、強い心で進むことは、一人ひとりが大人たちと

子供たち、社会のウェルビーイング実現に向かうために必要なことと考えます。さらなる一歩を踏み出せる自分の存在と、PTAの縁を生かして活動する価値とを再発見し、明日の活力源となることを願う講演されました。



新たな一歩を踏み出すことの重要性を語る前野氏



記念講演 今日目的課題・人権教育 研究課題

ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ



震災に負けじと元気いっぱいアピールする石川県PTA連合会のメンバー



宇田実行委員長に日本PTA全国協議会旗を手渡された 宇田直人・石川大会実行委員長

ISHIKAWA PTA 2025
本年元日に能登地方を震源とする能登半島地震の発生直後より、全国の皆さまから、温かい励ましのお言葉をいただきました。公益社団法人日本PTA全国協議会を通じて支援金をお寄せいただいた皆さま、直接石川県PTA連合会に支援金をお寄せいただいた皆さまに、当初は開催延期または中止の意見もありましたが、能登地区の会員から全国大会にはできる範囲内で協力したいという話があり、被災した会員に十分配慮した上で、全国大会を開催することに決定いたしました。

第73回 日本PTA全国研究大会
第81回 日本PTA東海北陸ブロック研究大会
2025年8月22日(金)・23日(土)開催
石川大会のアピール

大会宣言

私たちは、未来を担う子どもたちを慈しみ、見守り、支えていきたいという想いを抱き、様々な「縁」によって繋がった社会生活を営んでいます。自分の生きる道だけでなく、家族や友人、学校や住む地域、それぞれの幸せのあり方に思いを馳せるウェルビーイングの大切さを、「縁」が織りなす繋がりを通じて、社会に伝え広げることを目指し、「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から〜活かそう「縁」の力〜」のスローガンのもと、第72回日本PTA全国研究大会川崎大会を開催いたしました。

本大会では、一つの会場に集い、様々な分野に及んで大きく変化の様とその本質とを学び、一人ひとりがPTAの「縁」を感じながら、家庭・学校・地域のウェルビーイングの実現を目指して行くことを、個々人のアクション・プランに掲げました。

今、これらを実践して、よりよい子供たちの教育環境づくりと、一層活発なPTA活動とを全国的に推進していくことを宣言し、次のとおり決議します。

決 議

- 一、社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動を推進します。
- 一、自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動を推進します。
- 一、誰も取り残さない、居場所を大切にすPTA活動を推進します。

2024年8月24日第72回日本PTA全国研究大会川崎大会

第72回 日本PTA全国研究大会

川崎大会に参加した参加者の声

各講演セッションでグループに数分のトークタイムが設けられ、聞くだけではなく自分達で意見や思ったことを言葉にして互いにシェアし合えたのがよかった。

グループメンバーのそれぞれの都道府県により違いがあり、驚きとともにとても良い経験ができました。

二日間を通して、講師の方々の貴重な意見を聞くことができ「ウェルビーイング」についての思いが深まりました。



来賓挨拶をするあべ俊子副大臣

文科省よりあべ俊子副大臣をはじめ、総合政策局より望月慎局長と地域学習推進課・



決定し、鹿児島県PTA連合会の太田敬介氏が新会長に選任され、二子供たちの健全育成と福祉の一層の増進を図り、社会の発展に寄与することの抱負を語りました。また、翌20日には研修会が開催され、講師として文科省より、地域学習推進課・高木秀人課長、初等中等教育局から

高木秀人課長を迎え、全国61協議会の内57人の各会長が参加して行われました。来賓挨拶としてあべ副大臣は、「文科省では、地域の実情に応じて学校・家庭・地域の連携を深める取り組みを推進しており、子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて力添えをいただきたい」と日Pへの要望を述べられました。当日行われた理事会において新役員が

「令和6年度定時総会」を6月19日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。

定時総会にて、太田敬介氏が新会長に選任



新会長に選任されたことを報告する太田会長

あべ 俊子氏	文科科学省・副大臣
望月 慎氏	文科科学省総合政策局・局長
高木 秀人氏	文科科学省総合政策局地域学習推進課・課長
中村 豊氏	日本教育会・事務局長
植村 洋司氏	全国連合小学校長会・会長
富士道 正尋氏	全日本中学校長会・事務局長
森川 誠氏	一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会・副会長
松野 博文氏	全国公立学校教頭会・会長

令和6年度定時総会におけるご来賓一覧

財務課・鈴木文学企画官、学校情報基盤教材課・寺島史朗課長と全国連合小学校長会対策部長の松原修氏(武蔵野市立第二小学校長)を招いて行われました。※後編は定時総会開催時のものです。

令和6年度新役員の意気込み

この度、副会長の任命を受けました中村 総一郎と申します。子供たち、先生方をとりまく環境が急激に変化する中、日本PTAでなければ果たせない役割は何かを皆さんとともに考え、行動に移していきたいと思っております。



副会長 中村 総一郎

私自身が考える日本PTAのミッションは、
1、協議会代表者の情報交換、共有の場を設けること
2、行政機関(文科科学省等)へ、各協議会の現状と提案を伝え、また行政機関からの情報をタイムリーにフィードバックすること
3、日本PTA全国協議会のスケールメリットを活かした公益事業を精選し、効率的に実施すること
公益事業部門では「調査研究事業」を担当します。各協議会の皆様へ、アンケートのご依頼を申し上げますこととなりますが、こちらについてもお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

今年度、副会長に就任しました丹羽寛美です。理事としては2年目になり、やっと日Pが少しずつわかってきたように思います。今年度は、より全国のPTA会員の皆さんに寄り添った活動ができるよう尽力していきたいと思っております。



副会長 丹羽 寛美

私はこのPTA活動を通じてさまざまな繋がりをいただきました。この活動がなかったら絶対に知り合えなかった方、また知ることができなかった繋がりができ、本当にありがたいなと思っております。それは各学校や地域においてもそうなのではないでしょうか。私自身、地域で生活する上でこういった繋がりがあからこそ、子供たちも守られ、育てていけるんだと感じています。そんな私の心が安定していると子育てにも余裕ができ、笑顔で過ごすことができていると思っております。そのためにもたくさんの方々とお繋がり、私は一人じゃないということを感じながらこれからも活動していきたいと思っております。今年度もどうぞよろしくお願致します。

令和6年度、副会長を務めさせていただくことになりました、比嘉里奈です。



副会長 比嘉 里奈

副会長の職務は、会長を補佐してこの法人の業務を執行することにあります。同時に、理事としても、定款並びに総会及び理事会の決議を遵守し、この法人のために忠実にその職務を遂行いたします。私は、現在、子供たちを取り巻く諸問題は、子供たちが将来大人となる際の手本となるべき大人が、手本となり得ていない大人の社会問題に起因していると思っております。社会構造の変化に伴うモラルの低下や自己中心的な人間関係の在り方などが、子供たちの目にどのように映っているのでしょうか。自らの言動を振り返り、社会問題や人間関係などを学べる本会が、一層重要な役割を担えると思っております。また、法人運営・公益目的事業の表彰事業を担当する他、文科科学省や法務省の会議などにも出席いたしますので、さらに、知見を得ると共にPTAの保護者の立場から意見を交わっていきます。

この度、北海道・東北地区からご推薦を頂き令和6年度からの理事に就任いたしました一般社団法人岩手県PTA連合会会長の山下泰幸と申します。大役に身が引き締まる思いでございます。



理事 山下 泰幸

さて、昨年度からの日Pの諸問題が未だ解決しておらず、メディア等で報道もあり、全国のPTAの混乱を招く現状に對しまして、昨年度から関わっている県の代表者として大変申し訳なく責任を感じております。日Pは全国の会員の皆様のご支えがなくては社会教育団体です。理事として、日Pの諸問題の早期解決に向けて尽力しつつ、少子高齢化の時代に見合う事業を推進すると共に、子供たち、学校、PTAの多岐にわたる問題の対応策を先人の教訓に学びながら、役員、全国の代表者、関係省庁と共に知恵を出し合い、協力して参ります。私は子供を中心とした教育環境が整備された日本を目指し、全ての人が笑顔溢れる未来となるよう精進して参る所存です。お力添えをいただければ幸いです。

令和6年度公益社団法人日本PTA全国協議会 2年目理事を務めております清水敬介と申します。



理事 清水 敬介

少子化による会員の自然減少や日本PTAからの退会等もあり、会全体の予算も大変厳しい中、公益目的事業の在り方も含め、検討をしないといけない令和6年度であると認識しております。今までの踏襲だけでは無く、新しい発想や見直しも含めて、日本PTAの存在価値を具体的に示す必要が急務であります。今年度も改めて文科科学省をはじめ教育関係団体との関係の強化・連携を更に深め有益な情報を提供出来るように努めたいと思っております。日本最大の社会教育関係団体として全国750万人の会員の皆様のため、そして大切な子供達の明るい未来のために活動して参りますのでどうか引き続きご支援・ご協力の程何卒宜しくお願い致します。私自身、日本PTAに関わり6年目となり本年度で最後となりました。微力ではありますが、出来る事を精一杯努めて参ります。

この度、常務理事に就任いたしました宿南洋一でございます。



常務理事 宿南 洋一

微力ではございますが、法人の発展、そして地域や社会への貢献に一層の努力を重ねる所存です。近年、私たちの取り巻く環境は急速に変化しており、特に子供たちを取り巻く社会課題はますます多様化・複雑化しています。そんな中、私たちは次世代を担う子供たちが健やかに成長し、広い視野を持って社会に貢献できるような支援していくことが重要であると感じています。当法人では、これまで教育支援や地域社会の連携に力を入れてまいりましたが、今後はさらなる充実と支援の輪の拡大に努め、全国の各協議会、関係省庁、団体との連携も強化していきたいと考えております。子供たちの未来に役立つ活動を推進してまいります。これからも皆様のご期待に応えられるよう誠心誠意努力してまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年度 定時総会 宣言・決議

公益法人としてガバナンスを遵守した運営と、主体的・対話的な事業の展開と情報発信によって、家庭教育及び社会教育の充実を努めることを宣言し、令和六年度定時総会における決議としました。

宣言

公益社団法人日本PTA全国協議会は、保護者と教職員で構成する日本最大の社会教育関係団体として、国が行う教育改革や子供たちを取り巻く環境整備に関する施策等に対し、積極的に意見・協議を行いながら、教育力の向上及び子供たちの健全育成に寄与してきた。

我々はこれからも、国全体の教育環境をよりよくすることを、教育関係団体や関係諸機関等とともに検証・議論することによって、子供たちの生き抜く力を醸成し、誇りをもち、夢を描き、ウェルビーイングの向上と共に、将来に希望のもてる社会づくりに貢献していくことが果たすべき役割であり、責務である。

また、公益法人としてガバナンスを遵守した運営と、主体的・対話的な事業の展開と情報発信によって、家庭教育及び社会教育の充実を努め、これまでに以上に家庭・学校・地域が連携協力し、子供たちの健全育成と福祉の層の増進を図り、社会の発展に寄与することが必要である。

ここに公益社団法人日本PTA全国協議会としての役割と責任を自覚し、組織の総力を結集し、次の決議の実現に全力で取り組むことを宣言する。

決議

令和六年度定時総会における宣言に基づき、具体的目標として、次の事項を決議する。

一、子供たちの教育の原点は家庭にあることを認識し、加えて、学校教育・社会教育について理解を深め、子供とともに成長し、家庭における教育力の向上を目指す。

二、子供たちの教育環境の充実をより推進するため、関係府省庁や関係諸機関等との連携協力を層密にする。

三、子供たちの心身ともに健全な成長と、持続可能な社会の創り手の育成を目指して、社会の変化に対応した教育の改革に主体的に取り組む。

四、子供たちを取り巻く様々な課題の解決に努めるとともに、多様性を尊重し、「いのち」の尊厳と「人権」の大切さを強く訴える。

五、子供たちが自然環境を守り、郷土に親しむ心を培うとともに、国際理解を深め平和を希求する人の育成を目指す。

六、子供たちの安全・安心を社会全体で見守り、より良い生活環境づくりを目指す。自然災害に対する防災意識の高揚・デジタルシニアシップ教育の推進により、より良い社会環境への寄与を高める。

七、全国組織として、PTAの存在意義を再認識し、社会の変化に対応した組織運営や情報発信など活性化方策を構築し、その普及啓発を進める。

公益社団法人日本PTA全国協議会
令和六年六月十九日

令和6年度新役員の意気込み

全国研究大会川崎大会の実行委員長として、令和5年度から理事に就任しました。本大会においては、素晴らしい先生方とスタッフに恵まれ、令和6年8月、皆様のご協力ご参加のご縁を頂いて、ウェルビーイングと実践への想いを、実に楽しく発信・共有することが出来ました。ありがとうございます。日Pを含め組織ありきのPTAになっては、様々な疑念が集まって来てしまいます。私たちの活力源は、何にもまして子供たちの笑顔です。子供たちの喜びもまた私たちの笑顔でしょう。その原点にこそ立ち返り、皆様と共に笑顔を広げて行く一人でありたいと思っています。子供たちが、明るく生きる強い力と公德心に満ち溢れ、将来、それぞれの道や方法で社会に羽ばたくことを願い支えて行きたいと思えます。「ありのまま、ありがたいの心で、何でもやってみよう、何とかなるよ〜」と、これからも子供たちと歩んで参ります。



理事 浦山 利博

今年度初めて理事となりました、関東ブロック推薦の畠山佳樹です。さて、現在の日本PTAは、全国750万会員の為になる活動を展開できているでしょうか？時代の要請に合わせて変化を、求められる役割を果たしているのでしょうか？全国の協議会に対して、真摯で誠実な対応はできているでしょうか？残念ながら、さいたま市、千葉市が日本PTAから脱退し、全国で追隨する動きが目立ち始めているこの状況が、その答えなのかもしれません。しかし、脱退による組織力の低下は、発信力、存在感の低下を招き、子供たち、保護者、教職員のために世の中を動かすことが困難になります。この日本PTA最大の危機を脱するためには、全国の皆様からの信頼回復が急務だと考えます。今こそ日本PTAは、深い反省に基づき、現役会員の意見を尊重した公平公正で透明性のある運営に立ち返り、求められる役割を果たすべく、真摯な運営を行うべきです。そのために私は、理事として、役割を全うしてまいります。



理事 畠山 佳樹

令和6年度、理事に就任いたしました高城みさと申します。これまで協議会代表者として本会の活動に関わらせて頂いた中で、沢山の変化を肌で感じてきました。新型コロナウイルス感染症対策で思うように活動ができなかった期間が明け、様々な事業が再開される中で、関わる人も、関わる皆さんの意識や全国でのPTAに対する捉えられ方も大きく変わりました。未だ様々な課題が残り、変革が必要な部分もありますが、まずは、日本を代表する社会教育関係団体である本会の在り方を再認識し、そのうえで現状に合った組織を構築していけたらと考えます。その一方で変えてはいけないものもあると考えます。私自身、子供たちのためはもとより、本会に携わる皆さんにとって有意義な時間を創出できるよう努めたく存じます。自分自身がこれまで以上に本会に興味を持ち、研鑽を重ね、今何をすべきかを考え行動できるようにしていき所存です。力至らぬ点々あるかとは存じますが、理事の一員として努力して参ります。



理事 高城 みさ

私のPTA活動の原点は小学校でのバザー販売です。ピカチュウに仮装した私は子供達の笑顔を目の当たりにし大きな喜びと幸せを感じました。単位PTA会長や市協議会会長を務める中、充実した学びの場、他校や市外・県外で頑張る仲間との姿など、これまで知り得なかった世界に触れ、更に活動への意欲は高まってきました。PTAには様々なステージやフィールドがあります。その役割を担ったからこそ得られる知識や経験があり、それを自らの家庭・学校・地域づくりに活かしていく、そこに私は大きな価値を感じています。決して楽しいことばかりではありませんが、誰かからの「ありがとう」が一番のモチベーションになっています。自分を成長させてくれたPTAに恩返し・恩送りをするべく、日本PTA理事職を全うしてまいります。更なる学びや経験、出会いに大きな期待と希望を持ち、関わる全ての皆様への感謝の気持ちを忘れず、一期一会を大切に全力で活動に取り組んでまいります。



理事 森山 慎作

中国・四国ブロック選出として理事に就任しました。山口県PTA連合会では副会長を務めさせていただいている溝口憲治です。PTAの役員経験は、令和元年に単位PTAの副会長を務めさせていただいてから6年目、令和2年以降は単P会長として、また県P理事として活動して参りました。多くの会員の方がそうであるように、輪番により、たまたま理事となった「ただのお父さん」です。日Pでの活動は今年が初めてであり、右も左も分からない状況の中での5カ月を振り返ると、「全国の代表者の支え」があっただけで、その日Pであると感じています。事業環境や事業運営、全ての面において大変な時期に理事を務めることになりましたが、これからは、代表者の意見・話し合いの場を大切にしながら、丁寧な合意形成が出来るよう努めることで、全国の子供たち、保護者・教職員のための日P本来の活動を進めていけるよう、その職責を果たしたいと思います。



理事 溝口 憲治

石川県PTA連合会の会長を務めております宇田直人と申します。私は全国研究大会石川大会実行委員長としての理事になります。どうぞよろしく願い致します。今年の元旦に能登半島では最大震度7の地震、9月には豪雨が襲い、たいへん大きな被害が出ました。その際には、全国から多額の支援金をいただき、本当にありがとうございました。それから本当に大会を開催しても良いものか、皆で話し合ってきました。当初は話し合うことすら憚られる状況でしたが、できる範囲で開催しようということになりました。残念ながら能登半島では分科会を開催できない地域も有りますが、代わりに他の地域が手を挙げてくれました。今では、震災に遭った石川だからこそできる大会にしようという機運が高まっています。こんな時にこそPTAは絶対に必要だとお伝えできればと思っています。皆さまからいただいた御恩に報いるためにも精一杯頑張りますので、応援よろしく願い致します。



理事 宇田 直人

